

大学院進学のススめ。



岡山県立大学
OKAYAMA PREFECTURAL UNIVERSITY

岡山県立大学大学院デザイン学研究所デザイン工学専攻

大学院で学ぶということ

建築学は、歴史・計画・デザイン・構造・環境・法規・都市など、非常に幅広い分野から構成される学問であり、大学での4年間は基礎的なことを網羅的に学びます。大学4年次の1年間は、社会的なテーマ等を決めて卒業論文と卒業制作に取り組みますが、大学院ではそこから更に自分が身につけたい分野を特に集中して学び、人より抜きん出た自分の得意領域をつくっていきます。それは就職活動でも優位に働きますし、その後の長いプロフェッショナル人生においてもずっと役に立つ強靱な能力ともなります。

全国には約170の建築系学科があり、毎年約2000人が卒業していきませんが、そのうちの30%程度が大学院に進学しています。国立大学に限れば70%程度となります。そこまで大学院進学率が高い要因のひとつに、大手の設計事務所や建設会社が大学院卒生の採用を優先することがあります。大学院を出た方が就職先の選択肢が増えると同時に、給与面でもメリットがあると考えて進学する学生もいます。また、大学院の間に建築士試験に合格することを目指す学生もいます。大学院は研究者志望者が学問を極めに行くところというわけではないのです。

もちろん、早く就職して早く実践で力をつけたいという考え方もあります。近年の就職状況は売り手市場であり、就職率はほぼ100%です。一方で、自分が伸ばしたい分野の能力を大学院でしっかりと身に付け、今後の長い人生の礎としていきたいという学生には大学院への進学をお勧めします。学会等での研究発表、コンペティション参加、地域プロジェクト等の取りまとめ、海外留学など、成長できるチャンスをたくさん用意しております。

大学院とはどんなところ？

岡山県立大学大学院では、2年間の修士課程を設けています。学生たちは建築家などの専門家になることを目指して、高度な知識と技能を身につけるために、研究や設計に取り組んでいます。大学院の授業では、学部よりもさらに少人数のクラスになるので、密度の高い教育を受けることができ、高度な課題について教員と学生がともに考え、答えを出していくという新しい体験が待っています。そして大学院の最もコアな部分が、研究室での活動です。教員はそれぞれに最先端といえる研究領域を持っており、そこには知的興奮に満ちたワクワクした世界が広がっています。大学という社会の一番「おいしい」部分が大学院なのです。

その例として、一つの授業をご紹介します。主に1年生が選択する「空間計画学特論Ⅰ」です。ここでは、建築学の知識や方法を歴史から学ぶために、実際にある建築物を徹底的に調査することに取り組んでいます。まず、その建築が建てられた時代背景や、建設事業者について、またその施設の現在までの変遷を史料から調べ上げます。さらに、建物を実際に実測することで、空間構成を理解し、当時の使われ方を探っていきます。こうした一連の調査を通じて、この建築が今後も残していくべき価値を有するものなのかどうかを判断します。そしてそれを有効に活用するとすれば、どのような活用方法が適しているのかを考え、所有者へ提案もします。それにより建築に求められる創造力を養うことを目指すこととなります。

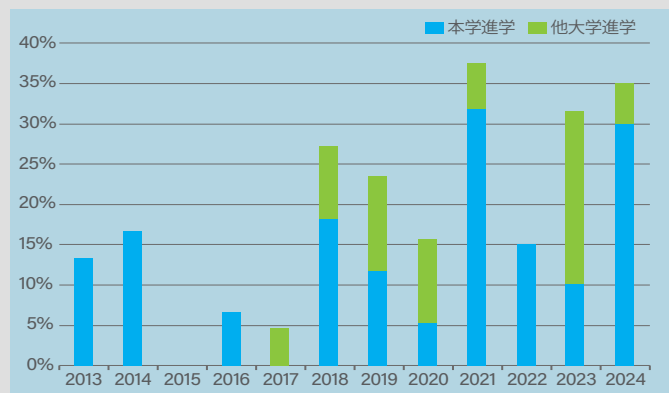
■進学率と就職先

建築学科の学生の大学院への進学率は旧帝大で9割以上、地方国立大でも7割程度です。一方、私立では有名大学で6割程度、地方では1割に満たない大学も少なくなく、環境によっては、大学院進学を遠く感じるかもしれません。

就職という観点では、大学院では個人個人の専門性を伸ばすことで、就職可能な企業を選択しやすくなり、活躍の場がより明確になります。また、大手ゼネコン設計部や大手組織設計事務所、有名アトリエ設計事務所などは、院卒でない限り入社が極めて難しくなっています。

■岡山県立大学の大学院進学率の推移

建築学科の開設に併せて教員・教育環境が充実することで、学生の向学心も増し、近年は進学率30%を超えるようになってきました。



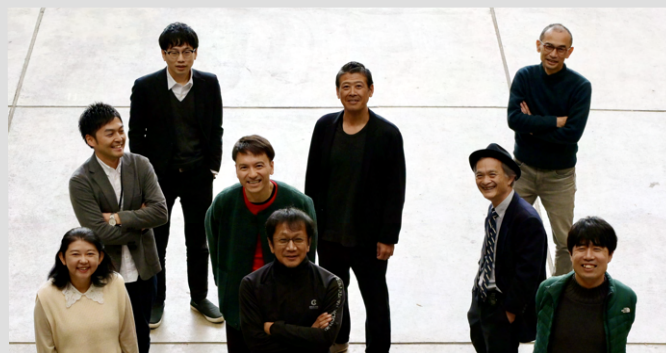
■大学院修了者の就職先

- ・(株)日建設計
- ・(株)アール・アイ・エー
- ・(株)プランテック
- ・(株)INA 新建築研究所
- ・(株)創和設計
- ・日鉄テックスエンジニア(株)
- ・(株)陶器二三男建築研究所
- ・(有)設計事務所ゴンドラ
- ・オオノヨシオ建築設計事務所
- ・(株)フジタ
- ・西松建設(株)
- ・(株)サンケイビルテクノ
- ・大和ハウス工業(株)
- ・(株)ウッドワン

■他大学大学院への進学実績

- ・京都工芸繊維大学(4人)
- ・東京藝術大学(2人)
- ・千葉大学
- ・奈良女子大学
- ・名古屋市立大学(2人)
- ・工学院大学
- ・ポर्टランド州立大学

本学大学院には、他大学卒や社会人、留学生も年に1、2名は在籍し、多様な背景と価値観のある学生が切磋琢磨しながら研究に取り組んでいます。



※令和7年度より、デザイン学研究所は現在の2専攻から1専攻(デザイン学専攻)に改編予定です。1専攻にすることで、より領域横断的な教育研究環境を整えていきます。(改編については設置構想のため、変更になる場合があります。詳細は随時本学WEBサイト等でお知らせします。)



岡山県立大学
〒719-1197 岡山県総社市窪木 111
TEL : 0866-94-2111
<https://www.oka-pu.ac.jp/>

2023年12月発行

院生からのメッセージ



山浦健士朗
大学院 2 年
(2022 年岡山県立大学デザイン学部デザイン工学科卒業)

大学院は学部時代よりも研究に取り組める時間や環境が整っているため、進学し様々な課題に挑戦することで多くの貴重な経験ができます。現在、私はシザーズ機構を用いた展開構造に関する研究をしています。プログラムを書いて CAD 上でその展開挙動を確認したり、3D プリンターを利用して実際に展開モデルを作りながら研究を進めていますが、研究過程で様々な疑問点や改善余地が見つかり、そのたびに試行錯誤を繰り返して問題解決を図っています。

研究は元々ある知識やスキルを以て進められるわけではなく、研究を進める過程で様々な知識やスキルが身につく、その結果、新しい発見に繋がります。そのため大学院では主体的に研究に取り組む姿勢が大事だと実感しています。そして研究を通して身についた能力や経験が、社会生活での糧になるのではないかと考えています。

最後に、大学院は研究に追われた生活というわけではなく、学業以外のことにも打ち込める貴重な自由時間であり、苦しくも楽しい生活です。皆様も是非、探求心を持って楽しんでください。



川岡聖夏
大学院 2 年
(2019 年広島工業大学工学部建設工学科卒業)
●ひろしま建築学生チャレンジコンペ 2022 入選
「三原市屯所計画」矢口絵理奈と共同設計

学部卒業後にゼネコンの設計部を 3 年弱経験し、本学大学院へ進学しました。会社に勤めている時はスピード感が求められ、一つの建築に対して時間をかけて向き合う事が殆どありませんでした。そこで修士研究というかたちで、もう一度建築と向きあう時間を作ろうと考え、大学院進学を決意しました。この 2 年間を通して、建築において自身が大切にしたいと思える「軸」を見つけれられたらと考えています。自然に囲まれ川の流れるこの大学は、都会の刺激的なキャンパスとは異なり、ゆったりと穏やかな時間が流れています。この大学を訪れた際、研究と向き合う場所として、最適なキャンパスだと感じました。

現在は、水際空間の研究を行っており、岡山に流れる高梁川流域での流れ橋の調査をしています。研究の他にはコンペティションへ作品提出を行っております。修了後は出身地である広島的设计事務所就職し、故郷へ恩返しが出来たらと考えています。



片山志乃
大学院 1 年
(2022 年岡山県立大学デザイン学部デザイン工学科卒業)
●トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム 第 14 期 派遣留学生

学部の卒業論文では岡山県の水車小屋の残存状況や利用実態について研究を行いました。国内での復元事例だけでなく、水車小屋が保存・活用されている様子を実際に見たいと感じていました。研究に限らず幅広く知見を得るためにもっと時間が費やしたいという気持ちから進学を決定し、海外へ出て未知の環境で滞在生活するという願望があったことから、修士に進学後の 1 年間に休学し、ドイツのミュンヘンで研究留学をしました。

言語だけでなく、様々な壁に日々直面しながらも、出会う人々との対話は常に刺激的で、積極的に意思を伝えようとする姿勢、何事も能動的に取り組む姿勢が身につきます。ひとりでは得られない考え方や体験の共有を通じて、物事を多角的に捉え、思考するようになりました。

与えられた環境に満足せず、「知りたい」の気持ちを常に行動に移すことで、あらゆる物事が学びに繋がるはず。意思決定は常に自分に委ねられています。興味を持ったことを「やってみる」努力を惜みず、いろんなことにトライしてみてください。

大学院修了した社会人からのメッセージ



瀬尾晃二
株式会社スタジオ・ゲンクマガイ
(2016 年岡山県立大学大学院デザイン学研究科デザイン工学専攻修了)
●住空間 eco デザインコンペティション 2016
審査員特別賞
●CLT アイデアコンテスト スター誕生部門 8 選
●キルコス国際建築設計コンペティション 2016 佳作

大学院卒業後に建築設計事務所に就職し、現在はランドスケープ事務所デザイナーとして勤務しています。私の仕事は、建築家とプロジェクトのコンセプトを考えるとところから協働して、その土地の持つ特性や環境を読み取りながら空間のデザインをしています。

大学院の授業では、学部よりもさらに少人数のため先生との距離が近く、自分の考えを発言する機会が増えます。緊張感もありますが、その分建築に対する考えをより深めていくことができたと思います。他にも実際に地域の方々と共に進める実践的な授業があります。私は前に立って、プロジェクトをディレクションしていくことが得意ではありませんでしたが、授業の中で鍛えられたと思います。また、他の専攻の授業も受けることができ、自分には無かった考え方に触れることも刺激になりました。

大学院は学部よりも自由な時間があります。私の場合は、積極的にコンペに参加したり、様々な建築を見て回りましたが、その経験は人に伝えるための知識や表現するスキルとなり今の仕事にも繋がっています。大学院に進学される方には、自主性を持って自分のやりたいことに思いっきり挑戦してほしいと思います。



河野純平
株式会社日建設
(2018 年岡山県立大学大学院デザイン学研究科デザイン工学専攻修了)
●第 5 回 2018 学生・若手実務者のための構造デザインコンペティション「STRUCTURE SEEDS」最優秀賞
●コロキウム構造形態の解析と創生 2019 一般講演「平面シザーズ構造を組み合わせた展開型角柱による立体骨組の構成手法」優秀講演表彰

現在、私は構造設計に従事しています。大学院では展開構造について研究していました。構造分野において展開構造というのはまだまだ新しく特殊な分野ではありますが、本大学院では自分のやりたいと思った研究に打ち込み、先生方との距離が近いので、密にコミュニケーションをとることができ、新しい分野の研究でしたが、上手く研究を進めることができました。これは他大学院と比較しても良い点かと思っています。

大学院では良くも悪くも自由で、学生時に先生から「大学院生は半社会人だ」という言葉をいただき、主体性を持って行動することの大切さを学びました。本当に 2 年間というのはあっという間で、就活を考慮すると大学院 1 年目というのは特に大切な期間でした。目的が無くなんとなく進学してしまうとものすごく勿体無いので、こうしたい！こうなりたい！というビジョンを持つことが大切だと思っています。



安達 駿
株式会社アール・アイ・イー
(2018 年岡山県立大学大学院デザイン学研究科デザイン工学専攻修了)
●第四回 ラ・アトレ+小泉 学生実施コンペ 「茶室のある暮らし」入選
●第 2 回 Woody コンテスト 木造住宅部門 (学生部門) 「棚田と暮らす原風景」最優秀賞
●第 5 回 2018 学生・若手実務者のための構造デザインコンペティション「STRUCTURE SEEDS」最優秀賞

大学院ではゼミ活動や改修プロジェクト、研究活動、コンペ等様々なことに取り組まれました。その中で身に付けたコミュニケーション力、大学院で自分を見つめ「学び」「考える」こと、研究活動を通じて一つの事を「明らかにする」こと、これらは今でも私を支える力になっています。

現在は私は組織設計事務所、再開発・中規模建物の設計監理、エリアリノベーションの業務を担当しています。実務の設計では、複数の関係者と協議し、合意形成を得る必要があります。そのため様々な意見に流されて方向性が定まらないことが多々あります。それを解決するには、コンセプトを共有し、良い絵を描き、設計者の思いを粘り強く伝えることが大切だと思います。こうした考え方の背景には、大学院時代の影響が大きいです。学外活動・研究活動で学んだ、人と対話する力や探究する力、コンペや学会発表等を通じて自分の視点で社会へ発信すること、その他、大学院での時間や出会いに影響を与えられ、私の設計者としてのスタイルを作っていると実感しています。

大学院は人生の中でも貴重な時間になると思います。楽しみながらぜひ挑戦してみてください。